



三 愛 学 園

児童養護施設さんあい

一時保護施設

三愛子ひつじ寮

社会福祉法人 三愛学園

〒369-0212 埼玉県深谷市櫛挽 15-2

Tel 048-585-0605 Fax048-585-0562

Mail san-ai@isis.ocn.ne.jp

URL san-ai-jidouyugo.org



子どもも大切、職員も大切

理事長 高瀬一使徒



聖書には人がこの世で幸せに生きてゆくために様々な戒めや規範が書かれています。特に旧約聖書では殺人、不倫、偽証を戒めるものから、食べ物やお祭りの実施方法に至るまで詳細に書かれています。ある規範は普遍的なものであり、あるものは時代的なものです。新約聖書では倫理・道徳的な規範が多く書かれていますが、クリスチャンはすべてを把握してあらゆる場面で適用しているわけではありません。わかっているけどできないのが人間だからです。できない自分だから神の赦しが必要と考えるのが、正しい聖書の理解です。またある個所では「聖書全体の訓えは『自分自身を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい。』この一言に集約されている。」と書かれています。これは変わりゆく世の中や人間関係の中で、私たちがどう行動すべきかの道標です。

児童養護施設では様々なことが起きますが、その際の行動規範としても前述の聖書の言葉は、きわめて重要です。自分を捨てて子どもたちに尽くすのが正しいではありません。「自分自身を愛する」とは、自分自身を守ること、大切にすることです。子ども達の中には、時にその生い立ちや発達の課題で職員に暴言や暴力を出す子もいます。そんな時に職員は、子どもの背景は理解しつつも自分が嫌な気持ちになったことや傷ついたことを伝えるべきです。伝えるタイミングは状況に応じてです。子どもが怒りの絶頂にある時よりも少し落ち着いた時、しかも子どもの記憶が鮮明な間が良いです。また、自身を守る為には自分自身をしっかりと把握することが重要です。福祉では自己覚知と言いますが、これが不十分だと自分自身も守れないばかりか子どもとの関係構築にも苦勞します。自己覚知が不十分で子どもと共有できないと、子どもにとっては得体の知れない職員ということになってしまいます。子どもたちには一般論の善悪の言葉より、「私は嬉しかった」「私は傷ついた」というI(アイ)メッセージの言葉が必要です。このようなコミュニケーションから関係構築は進みます。職員には子ども達を大切することを養育目標として常日頃から伝えていますが、職員自身も大切にされるような養育を目指して歩んでいきたいと思いません。

タイの児童養護施設訪問

8月中旬に創立記念祭の売り上げの一部を寄付するために休暇をいただきタイのチェンマイに行ってまいりました。タイも日本同様に少子化ですが、社会的養護の必要な子どもたちは減少していません。特にチェンマイ周辺には、ラオスやミャンマー国境周辺に住む山岳少数民族の子どもたちを受け入れている民間施設が多くあります。主訴としては、貧困、麻薬、虐待が多いようです。タイでは民間施設に対しての政府からの財政支援はなく、支援者の寄付金と近隣住民からの食料品や生活用品の寄付、或いは食料の自給等で子どもたちの生活を支えています。タイでも食料品や電気等の値段が上がっており施設運営は大変厳しい状況になっています。ここ数年支援しているカトリック系の施設ポンサワンでは20名程度の子どもたちをシスター1名とお手伝い1名で見えています。当然ですがそれでは生活は立ちゆきませんので、子どもたちを5名ほどの班に分け、食事、掃除、洗濯、畑仕事等の日々のルーティーンを班単位で交代しながら担っています。子どもたちは毎日忙しいですが、表情は明るく生活共同体としての強い連帯感を感じました。今後もできる限りの支援を継続して行きたいと願っています。



こどもの意見表明

児童養護施設さんあい 施設長 平本 実



今年度から施行された改正児童福祉法には、こどもの権利擁護の取組をさらに推進するため、施設等に措置あるいは一時保護される子ども達の意見を聴く仕組みの必要性が明記され、その環境整備は都道府県等の業務であるとしています。今後、県から施設等に派遣された専門家が、子ども達の意見表明を支援する、というのが趣旨です。実際に施設の外部から来られる方に、子どもたちの意見表明を支援する働きがどれだけできるのか、これから試行錯誤が繰り返されるものと想像します。

いずれにしても、子どもたちが誰に対してであっても安心して自らの意見を述べたり、思いを表現したりできる環境を作ることは施設職員の責務です。さんあいとしては、これまでも年代別のこども会議を定期的開催し、施設として回答が必要な子どもからの要望には検討をして回答、対応をしてきています。苦情解決のために法人が依頼をしている第三者委員の方々には、不定期で子ども達の日常生活場面にも入っていただき、子どもたちが発する「声」がないか耳をそばだてていただいています。

ただ、意見表明ができればそれですべて問題が解決する訳ではありません。「意見表明は、あくまでプロセス。最終目標はこどもの参画により“真の民主主義”が実現すること」というロジャー・ハート*の言葉を肝に銘じたいと思います。

* ロジャー・ハート著、木下勇・田中治彦・南博文監修、IPA 日本支部訳『子どもの参画—コミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際』萌文社、2000年

自立支援を考える

三愛子ひつじ寮 ホーム長 佐藤 透子



この春、新体制になってから半年経ちました。子ひつじ寮開設から4年間は、利用者の伴走者として寄り添い支援を行なってきました。ふとした発言や細やかな行動の変化に気づくなど、ミクロな発見の積み重ねを大切に考え関係性を深めてきました。

ホーム長に就任してからは毎月、高瀬理事長とお話する時間を設けていただき、管理者には全体を俯瞰するマクロな視点が必要であることなど、施設運営に関するホーム長のスタンスについてご教示を受けました。

成人を迎える若者の自立支援を、どのような考えに基づいて実践すべきか。法人理念との整合性はどこにあるのか。利用者と職員(支援者)はどのような距離感・関係性が望ましいのか。職員のチームワークづくりや負担の少ない職場環境づくりのため、どのようなバックアップが必要か。異なる経験・スキルの職員集団であるため、一定の支援水準を保つことはとても困難です。さらに、経理・就業規則・システム管理・措置費請求・入居相談・研修・渉外活動など、さまざまな重要業務の下支えがあることを知り、改めてこの役職の重みを感じています。

今後は、子ひつじ寮から巣立っていった利用者たちの未来を見届ける支援者として、アフターケアにも力を入れたいと思います。また、共に高齢児を養育する施設として本園と横のつながりができると、三愛学園としての自立支援の理念が確立するのではないかと考えております。

児童福祉施設親善球技大会

今年も親善球技大会の季節がやってきました！埼玉県内の児童養護施設対抗で行う球技大会の種目はドッチビーとフットサルです。ドッジボールの代わりにソフトタイプのフライングディスクを使用する競技「ドッチビー」の大会は8月8日に鴻巣市立総合体育館にて開催。混合チームを含む小学生16チーム、中高生は10チームによって競われました。今年のチームさんあいはやる気にあふれた子ども達が、例年よりも早く自身で練習に取り組み始め準備万端。その結果、小学生チームは昨年の優勝チーム相手に善戦。惜しくも敗戦となりましたが、子ども達の健闘には目を見張るものがありました。中高生チームは、プール戦では苦戦の連続で一時は予選敗退の可能性もありましたが、決勝トーナメント進出が決まると、下がっていた士気が一気に上がりました。1回戦では、予選よりも高まったチーム力で一気に勝利。2回戦では昨年の準優勝チームとの戦いで、苦戦を強いられながらも見事勝利。そしていよいよ決勝戦。予選では負けてしまったチームとの再戦でしたが、今までで一番のチーム力を発揮し完勝。雪辱を晴らし優勝することができました。応援にまわった小学生チームの子ども達の力も得て、チーム一丸となったさんあいの勝利でした。子ども達のがんばる姿に職員も感動し、思わず目に涙が溢れました。

8月22日に開催されたフットサルにはさんあいからは高校1年生男児一名が参加。他施設児童との混成チームへの参加でしたが、持ち前のコミュニケーション力を発揮して、一丸となって戦う姿をみる事ができました。



中高生花火大会

夏休みの終わりに中高生と職員で花火大会を開催しました。普段とは違った雰囲気職員と一緒にたくさんの手持ち花火を楽しんだあと、一人一人が夏休みの思い出と2学期に向けた抱負を発表し、自分が選んだ打ち上げ花火に点火。「俺がいくよ！」と一番に前に出てくれる男子高校生。各々の思い出や2学期の目標をみんなの前で自信を持って言葉にする中高生たち。その言葉に温かい拍手を送る中高生たち。ここにいる中高生は皆相手を思いやる心を持つ素晴らしい人です。多くの葛藤と向き合う思春期の子どもたちにとって、こうした時間が少しでも安らぎになることを願い、職員はこれからも全力でサポートします。



さんあいの新しい仲間を紹介します！

さかもと ひな
坂本 妃奈 です。

- 埼玉県深谷市出身
- 趣味は読書

さんあいで働こうと思ったきっかけは？

児童養護施設に興味があり、三愛精神の【土を愛する】という理念に共感したからです。自然や対話を通して人とのつながりを大切にする方針に心打たれました。

どんな職員になりたいですか？

子どもたちの目線と等身大の自分の目線を上手く合わせて子どもたちに寄り添える職員になりたいです。

自己PRを一言

程よく元気、程よく笑顔で毎日を大切に過ごしています。未熟なところはございますが、どうぞよろしく願いいたします！

さんあいの なつやすみ ～外出編～

今年も夏休みの一大イベント、海や川、水族館やテーマパークと様々な場所へホームごとの一泊旅行へ行ってきました。春頃から各ホームで「どこに行きたい?」「何したい?」と話し合い、それぞれ計画を立てました。

職員はできる限り子ども達の要望を叶えてあげたい!と予算と睨めっこしながら、リーズナブルな宿を探したり、夏休みならではの体験ができるようにと様々な情報を集めたりと知恵を絞りました。日常を離れたひと時が職員と子ども達の絆を深めてくれ、楽しい夏の思い出もたくさんできました。

いちょう

今年の夏は栃木方面へ行ってきました。

1日目は那須ハイランドパークに行きました!職員が一步下がってしまうような絶叫系の乗り物も、子ども達は「ほら、早く行こう!」と全然へっちゃらです。いちょうの子ども達のパワフルさを改めて実感しました(笑)2日目はBBQと大谷石のアクティビティを体験!外でのBBQはいつも以上に食事が美味しく感じ子ども達も大盛り上がりでした♪アクティビティは化石発掘体験を行ない特別な経験ができました!楽しい夏の思い出が作れて大満足な旅行でした!



ねむのき

今年のねむのきは新潟県に行きました!海水浴はもちろん、魚市場で食べ歩き初体験!たくさんの鮮魚が並んでいるのに驚き、新鮮な生牡蠣やお刺身を味わい大興奮な子どもたちでした。朝は海辺の散歩をし、気持ちの良い朝を迎えました。せんべい作り体験をしたり、水族館にも行きました。帰りはみんなで温泉に寄り、旅行の思い出を語りながら疲れを癒し、良い時間を過ごすことが出来ました♪



女の子オーリーブ

女の子オーリーブの子ども達と群馬県桐生市にあるプール、カリビアンビーチへ行ってきました。お出かけを楽しみにしていた子ども達は行きの中では「もう着いた?」と何度も確認していました。プールへ着くと、おおはしゃぎで誰が速いか競争をしたり、どのくらい潜ってられるか勝負をしたりと、好きなことをして楽しむことができました。帰りの車内では「毎日行きたい!」と子どもからのリクエスト。笑顔が沢山みられて充実した外出となりました。これからも子どもがワクワクするような楽しい思い出を作り、子ども達にたくさん笑顔になってもらいたいです。

ポプラ

ポプラは夏休みに山梨県に行きました！1日目の富士急ハイランドでは大きい子は絶叫系を楽しみ、小さい子はトーマスランドを満喫しました。2日目の忍野八海では綺麗な池に感動した表情を見せる子もいました。売店を見かけると「アイスクリーム食べる！」と子ども全員大喜びで食べる姿が微笑ましかったです。そしてポプラは毎年恒例で最後の締めは「はま寿司」！子どもも職員も全力で楽しみ夏休みの良い思い出になりました。



ひのき

今年のひのきは子ども達に体験させる事を目的とした外出を計画！神奈川県逗子の方へと旅行しました。船に乗り、魚やカモメに餌をあげたり、ハンカチやカップヌードル作りを行いました。怖がりだと思っていた子が積極的に挑戦したり、製作では意外なセンスを発揮する子もいたり子ども達の新たな一面を見る事のできた良い旅行となりました。詰め込み過ぎて帰りは職員も子どももへとへとでしたが最後は「楽しかった、また行きたい」と言える充実した1泊2日でした。



もみのき

もみの木は今年、千葉県へ出かけました。道中時間がかかり鴨川シーワールドへはお昼頃の到着となってしまいましたが、お目当てのシャチのショーを見ることができました。間近で見る大きなシャチは大迫力で全員歓声を上げていました。2日目は市川動植物園へ行きました。昼食を食べ、動物たちを見て回っていると、雷がなり、ゲリラ豪雨にあっけしき、40分程度雨宿りをしました。止んだ後に最後に小動物たちを見ることができました。2日間怪我無く楽しく終えることができました！



男の子オリーブ

8月下旬、さんあいから車で30分ほどの距離にある寄居町の風布川遊びをするため出掛けました。猛暑を忘れるような山間の涼しげな景観の中を流れる風布川は子ども達の水遊びにうってつけの場所です。日頃から川に触れる機会が少なく、移動中の車内では子ども達が大はしゃぎ。現地へ到着すると川を見て大興奮でした。子ども達が川に足を入れると「めっちゃ冷たい」「魚だ！捕まえよう！」と魚を探し回り、夢中になって捕まえて遊んでいました。飛び込みスポットでは「めっちゃ楽しい！」と言い、何度も飛び込んでいた子ども達でした。これからも子ども達に様々な経験ができるように考えていきたいです。

女の子オリーブ

女の子オリーブでは、ここ数か月で在籍児童がガラッと変わりました。短い間とはいえ、一緒に寝食を共にした児童との突然のお別れは寂しいものです。お別れの際には、子ども達の目から涙があふれる様子を多々目にします。そんな時は、子ども同士とても良い関係が築けていたのだなと改めて感じ、子ども達の成長を嬉しく思います。夏休み期間中には、特別外出として栃木県の室内プールへ行きました。その他にもガーデンパーティー、中庭での花火など子ども達は全力で楽しんでくれます。一時保護中という不安定な状況の中で、この先どうなるのかと思ひ悩んでしまう子どももいますが、一時でも子ども達が安心して、ただ純粋に楽しむだけの時間を作ってあげられたらいいなと思っています。(小町)

最近のポプラの流行

最近のポプラメンバーの流行はずばり昭和歌謡です！ホームでは毎日のように歌謡ショーが行なわれています。先日の昼食では「Hey..HeyHeyHeyHey」とノリノリで学園天国を子どもが口ずさんでいました！最近ではNewJeansのメンバーが松田聖子の「青い珊瑚礁」をカバーして歌ったことをきっかけに、今では6歳の児童が「あ～私の恋は～」と大熱唱。懐かしのメロディーがお部屋中に響き渡っています。(鈴木)

アニマルクラブ お泊り会

今年で3回目となるアニマルクラブ大人気のイベント、『わんちゃんとお泊り会』を9/7～8で実施しました。子ども達から、「夜もポニーとずっと一緒に居たい。」「トトと一緒に眠りたい。」との要望から始まりました。お泊り会の目的は、沢山の時間を犬達と過ごす事です。交流ホールに自分の布団を敷き、わんちゃん達と一泊過ごします。夜のお散歩に出掛けたり、おやつタイムもあります。就寝時間前には犬と自身の体を密着させゆっくり撫でながらリラックスした時間を過ごし心を癒してもらいます。子ども達の穏やかな表情を見ていると、とてもよい時間なんだと毎回実感しています。(村尾)

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。
ご寄付は右記の口座をお願いします。
お名前をお入れください

埼玉りそな銀行 岡部支店(普) 0058888
7) サアガケソ リツ ヲウカカス 外

編集後記

夏休みは朝の涼いうちに宿題をしてから遊ぼうね！というのが長年の常識でした。しかし、今まで通りのスケジュールではお勉強の時間が終わるころには熱中症警戒アラートが赤信号！外遊びはできません。そこで、今年の夏休みは「朝の涼いうちにお外で遊ぼう！」「暑くなったら涼しい室内で宿題をやろうね」という新しいルールにしました。日中静かな中庭に違和感を覚える夏休みでした。でもそのおかげで子どもたちが元気に過ごせたことは何よりです。(広報タスクチーム一同)

夏休みの朝

夏休みも終わり、慌ただしい日々が戻ってきました。私が夏休みの終わりを実感するのは平日の朝です。夏休みの朝は「子ども達を時間内に学校へ送り出さなければ！」と焦る事はありません。「今日は何をしようか」「こんなことが楽しみだね」と話をしつつ、皆でのんびりと朝ご飯を食べる事ができました。私はこの時間が好きで大切にしてきました。夏休みは一日中子どもの対応をしなくてはならないから大変と思うかもしれませんが、夏休みが終わり、子ども達を学校に送り出すまでの慌ただしい時間を過ごす、夏休みという、休日特有のゆったりとした雰囲気恋しくなることがあります。(中嶋)

子ひつじ寮

猛暑に台風と慌ただしい夏でしたが、子ひつじ寮の利用者は宮澤賢治の詩のように、雨にも風にも夏の暑さにも負けずに仕事や学業、遊びにと精一杯逞しく生活をしています。中にはちょっと一休みの利用者もいますが、それも暑さのせいということにして、秋から職員と一緒に頑張ろう！

さて、この夏は子ひつじ寮にグッピーとネオンテトラという仲間が増えました。子ども達も涼しげな水槽の中を泳ぐ小さな魚たちに癒され、お世話を楽しんでいます。小さな命を大切に育てていきたいと思います。(細井)

台風10号

8月29日、台風10号の影響を受けてさんあいのある深谷市近隣にも大雨が降りました。中庭に溜まった水は見る見るうちに水位が上がり、22時頃には浸水間近となりました。急遽職員3名で排水作業を開始。排水ポンプ5台を設置しフル稼働で排水を続け、そのかいあってなんとか浸水を免れ夜を越す事ができました。いつ何が起こるか分からない非常時の対応、事前の対策が重要になる事を身に染みて感じた夜になりました。(奈良)